

第8回 カント

- 1 A 世界と人間のあり方を精神的な理念あるいは観念によって論じようとした、カントからヘーゲルにいたる哲学の潮流を何というか。ドイツ観念論(ドイツ理想主義)
- 2 A 経験論と合理論を批判的に統合し、科学的認識と実践との関係を峻別して論じたドイツの哲学者は誰か。カント
- 3 A 認識主観による対象の構成という考えによって経験論と合理論を統合したカントの主著を何というか。『純粋理性批判』
- 4 A 理論的領域において限界をもつ理性が、実践の領域でどのような働きをなすのかを論じたカントの道徳論・倫理学の書を何というか。『実践理性批判』
- 5 A 理論と実践、必然と自由の問題を媒介するに際して、判断力がもつ意味を考察したカントの著書を何というか。『判断力批判』
- 6 B 理性による理性そのものの批判・吟味を行ったカントの学問的立場を何というか。批判主義
- 7 B 認識の対象は独立して存在するのではなく、主観が有する認識の先天的な形式(カテゴリー)が対象を構成するのだという、カントが行った従来の認識論とはまったく逆の立場への転換を何というか。コペルニクスの転回
- 8 B 自然的因果関係によって生起する世界に限定された人間の認識能力をカントは何というか。理論理性
- 9 A 理論的認識を超えた行為の問題に関して、自ら法則をたて自らの意志に命令をあたえる理性をカントは何というか。実践理性
- 10 A 実践理性が打ちたてる、あらゆる理性的存在者に妥当する普遍的な道徳上の法則をカントは何というか。道徳法則(道徳律)
- 11 B 人間自らが「為すべし」という実践理性の命令にしたがい、道徳法則に対する尊敬の念から行為しようとするとき、必然的に生まれでる意識を何というか。義務
- 12 B 「義務にかなって」はいるが「義務から」行われたのではない、表面的に道徳法則に合致しているにすぎない行為の性格を何というか。適法性
- 13 B 道徳法則に対する尊敬と義務の念からのみ行われ、それゆえに道徳法則と合致している行為の性格を何というか。道徳性
- 14 B 「善いから行う」という、純粋に善への意欲を動機とする意志をカントは何と表現したか。善意志
- 15 B 善なる意志にもとづく行為を重視する考えで、行為の善悪の基準を動機におく倫理的立場を何というか。動機説
- 16 B 「もし〜ならば為せ」というような条件付きの命令で、条件に拘束されているために普遍性をもたず、道徳法則とはなりえない命令を何というか。仮言命法(仮言命令)
- 17 A 「為すべし」という形式のみで、行為の具体的な内容をもたないために普遍性をもつ無条件の命令を何というか。定言命法(定言命令)
- 18 A カントの道徳法則の原理を示したことば「汝の意志の格率が、常に同時に()の原理として妥当しうるように行為せよ」の()にあてはまる語は何か。普遍的立法
- 19 A 自らが打ちたてた行為の原則に自らがしたがうことをカントは何と表現したか。自律
- 20 A 自律的な自由の主体をカントは何というか。人格
- 21 A 道徳的行為の主体であると考えた人格について、カントが述べたことば、「汝の人格や他のあらゆる人の人格のうちにある人間性を、つねに同時に()としてあつかい、決して単に()としてのみあつかうことのないように行為せよ」の()に入る語はそれぞれ何か。目的・手段
- 22 B カント倫理学のように、自律的な自由の主体に最高の価値をおく倫理思想を何というか。人格主義
- 23 A カントが理想社会と考えた、相互の人格を目的にしあう社会を何というか。目的の王国
- 24 A 道徳的理想を国際社会にまでおし広げ、自由で主体的な国家の連合体によってカントが実現しようとした戦争のない状態を何というか。永久平和

25 B	道徳法則に対するカントの尊敬の念をしめしたことばで、彼の墓碑銘ともなっていることばは何というか。	「わが上なる星空と、わが内なる道徳法則」
26 B	認識主観である自我が客観的対象をも生み出すとして、カントの理論理性と実践理性の二元論を統一し、主観的観念論を説いた哲学者は誰か。	フィヒテ
27 C	ナポレオン占領下のベルリンでフィヒテが行った、ドイツ民族主義を鼓舞した演説を何というか。	『ドイツ国民に告ぐ』
28 C	いっさいの対立を超えた絶対者において、自然と精神の対立を統一しようとする客観的観念論を展開したドイツの哲学者は誰か。	シェリング
29 B	「シュトルム＝ウント＝ドランク(疾風怒涛)」といわれる文学運動の先駆者で、『ファウスト』などによってドイツ古典主義文学を大成させた文豪は誰か。	ゲーテ
30 C	カントの影響の下に生涯を通して神精的・政治的自由を求め、『群盗』などによって強烈な個性の人間像を描いたドイツ古典主義文学の先駆者は誰か。	シラー